

令和2年度
研究紀要

秋田県立秋田北鷹高等学校

目 次

1	令和2年度提案授業週間 実施要項	1
2	研究授業と研修部通信	
①	芸術科（音楽Ⅰ） 授業者 伊勢 画子	2
②	国語科（国語総合） 授業者 成田 八千代	6
③	商業科（簿記） 授業者 才宮 亮司	10
④	農業科（果樹） 授業者 菊地 生馬	14
3	令和2年度 「質問力」に関するアンケート 集計結果	18

令和2年度提案授業週間 実施要項

研修部

1 目的 主題に即した提案授業を、教科を超えて参観・協議することで、授業力向上を図る。

2 研究主題 生徒の質問力向上

3 主題設定の理由

- ① 課題研究や探究活動に取り組む際の「課題発見力」につなげること。
- ② 質疑応答のスキル・姿勢を養い、進路達成に向けた姿勢を培う。
- ③ 教科を超えて参観・協議することにより、職員の協働性を育むこと。

4 期間 令和2年10月19日(月)～30日(金)

5 内容 教職員を4グループに分け、それぞれのグループで提案授業及び参観、協議会を実施する。

Aグループ 10月23日(金)6校時(1A)授業者 成田(国語) 10月26日(月)放課後に協議会

Bグループ 10月22日(木)5校時(1C)授業者 伊勢(音楽) 同日放課後に協議会

Cグループ 10月23日(金)5校時(2Dキャリアコース)

授業者 才宮(商業) 10月26日(月)放課後に協議会

Dグループ 10月28日(水)2校時(2N)授業者 菊地(農業) 同日放課後に協議会

6 備考

- 1) 授業者は指導案等に提案授業のねらい等を記載し、全職員の机上に配付する。
- 2) 各グループの授業内容・協議内容は、研修部通信において紹介し、全職員で共有する。
- 3) 協議会の進行・記録等は、研修部員が担当する。
(協議会は付箋紙を用いたワークショップ型で実施する。)
- 4) 上記の授業及び協議会は「秋季授業公開」の対象授業とし、地域の教育委員会・中学校に公開する。

7 担当 松山

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

日 時 : 令和2年10月22日(木) 5校時
 対象生徒 : 普通科1年C組(23名)
 教科書 : 音楽Ⅰ改訂版 Tutti
 授業者 : 教諭 伊勢 画子
 場 所 : 音楽室

1 題材名 器楽アンサンブルの楽しみ
 教材 「グリーンスリーブス」

2 音楽科の指導目標

本校は1年次で芸術(音楽・書道)を全員2単位履修している。

音楽科では、歌唱、器楽、鑑賞と様々な分野に触れさせることにより、生涯にわたって音楽を愛好する心を育てようとしている。またそれら音楽の諸活動を通し、自己表現の大切さ・意義を学んでほしいと考える。

3 題材の指導目標

- ・器楽(ギター、リコーダー)の基本奏法を習得し演奏できる。
- ・器楽アンサンブルを通して、仲間と協力して演奏する喜びを味わう。

4 生徒の実態

男子9名女子14名の普通科クラスである。個々の能力差があり多少幼い面もあるが、明るい雰囲気のあるクラスである。ギターは全員が初めてであり、リコーダーも中学校で習っているが、進度に差がある。

5 題材の指導計画(14時間)

(1) 指導計画

- ① ギター奏法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9時間
- ② アンサンブル練習・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間
- ③ 発表会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間(本時)

(2) 評価規準

学習内容	評価規準			
	A 関心・意欲・態度	B 音楽表現の創意工夫	C 音楽表現の技能	D 鑑賞の能力
ギター奏法	ギターの種類や名称を覚え、意欲的に演奏に取り組んでいる。(観察)	ギターの弦の音色の違いに関心を持ち、イメージを持って音楽表現に取り組んでいる。(観察)	ギターの正しい奏法を理解し、音階、コード、リズム、強弱、等の技能を身につける。(観察)	プロの演奏に興味関心を持って、鑑賞する。(観察)
アンサンブル練習	楽器の準備や扱いがしっかりでき、仲間と協力して意欲的にアンサンブル演奏に取り組んでいる。(観察)	曲想を考え、それに合った表現の工夫ができる。(観察)	楽譜を正しく読み、メロディ、リズム、ハーモニーを正しく演奏することができる。(観察)	
発表会	仲間と協力し、意欲的に演奏している。(観察)	音楽を形づくっている要素を知覚し、曲のイメージや雰囲気を感受している。(観察)		お互いの発表をそれぞれの良さを感じて鑑賞することができる。(感想文)

6 本時の計画

(1) 本時の目標

器楽アンサンブルを通し、仲間と協力して演奏する喜びを味わおう。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	教 師 の 支 援 等	評 価 の 観 点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方を確認する。 	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに練習をする。 「グリーンスリーブス」 発表会 4グループごとに演奏をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本番通りの立ち位置で練習をするように指示する。 各グループを回り指導する。 生徒が緊張せず、伸び伸びと演奏できるよう雰囲気作りをする。 お互いの演奏を静かに鑑賞するよう指示する。 	<p>仲間と協力して練習に取り組んでいるか。 A</p> <p>意図をもって音楽表現に取り組み、意欲的に演奏しているか。B</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 本時の目標：仲間と協力して演奏する喜びを味わおう </div> <ul style="list-style-type: none"> 感想を述べる。 片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏者や奏法による音色や表現の違いに気づいたか。 	<p>お互いの発表を聴き、それぞれの良さを感じているか。D</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返り 		

北鷹研修部通信 第1号 (職員用)

令和2年10月23日(金)

秋田北鷹高等学校 研修部

★提案授業レポート (Bグループ)

10月22日 (木) 5校時 1年C組 芸術 (音楽) 伊勢画子先生

芸術は音楽と書道の選択。1年C組音楽選択者は男子9名、女子14名である。器楽アンサンブルの楽しみという題材で、ギター奏法、アンサンブル練習を経て、本時は「グリーンスリーブス」の発表会である。ギター、リコーダーのアンサンブルだが、欠席者もいて、カバーしあいながら臨むグループもある。

「仲間と協力して演奏する喜びを味わおう」という本時の目標を示して、授業の流れを確認する。

音楽室後ろには本校職員だけでなく中学校の先生6名が勢ぞろい。生徒の緊張をほぐしながら授業スタート。



各グループの練習状況を巡回しながら指導。

生徒は、昼休みに早めに集まって準備していただけあって、何度かやり直すうちにまとまってくる。伊勢先生のことばを聞きながら最終確認。

4つのグループが演奏を披露。同じ曲、同じ楽器のアンサンブルでもそれぞれのグループで趣が異なる。発表会終了後、それぞれ感想をまとめて、本時の振り返りをする。



研究協議：10月22日（木）15：40－16：40 会議室

協議の視点

- 1 生徒の意欲を高める手立てとその効果**
- 2 生徒のコミュニケーション能力を高める手立てとその効果**
- 3 生徒の思考力（考える力）を高める手立てとその効果**
- 4 生徒の質問力を高める手立てとその効果**



教科の枠を超えた授業研修で、研究協議会は、グループごとに付箋紙法で行われました。沖縄県から派遣され琴丘中学校で音楽の教鞭をとっていらっしゃる榊原由紀先生が、研究協議会にも参加してくださいました。

成果と課題

- ・共通の曲を、グループごとにアレンジを工夫して演奏している。
- ・できる生徒がほかの生徒に教えている。
- ・生徒の笑顔のある授業。集中して真剣に演奏している表情がとてもよい。
- ・教師の感想が次回の生徒の活動に生きるものであった。
- ・最後に生徒の感想や評価もほしい。

指導助言（青山仁校長）

器楽ができない人にはどのようなフォローをしていくか。発表会までの、生徒がもがき苦しむプロセスも見たかった。ほかの生徒に教えたり、評価したりというコミュニケーションを大切に。聴いてもらった嬉しさが次につながるだろう。

アンケートより

- ・発表は人前で自分を表現する機会になる。
- ・同じ曲が演奏者次第で違う感じの曲になると聞いて、農業でも作る人によって全然違うという点で同じだと感じた。
- ・専門外の教科の研修を参観するのはよい刺激になる。

国語科（国語総合）学習指導案

日 時 令和2年10月23日（金）6校時
 場 所 1年A組教室
 対 象 1年A組29名（特進コース）
 指 導 者 成田八千代
 教 科 書 国語総合（教育出版）

1 単元名 現代文 小説三『なめとこ山の熊』[描写から読み取る]

2 単元の指導目標

文章の特徴を捉え、音読を通じて文体や表現など書き手の工夫を読み取らせる。

- (1) 主体的に本と関わりその世界に親しむ態度を身に付ける。(関心・意欲・態度)
- (2) 本文を理解し、表現など書き手の工夫を読み取る。(読む能力)
- (3) 「読み聞かせ」を聞いて感じたことをまとめて話す。(話す・聞く能力)

3 評価規準

A 関心・意欲・態度	B 話す・聞く能力	D 読む能力
文章の表現の仕方や語句の使い方など、書き手の工夫を捉えて読もうとしている。	相手の話を適切に聞き取り、場に応じて効果的に話すことができる。	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して自分の読みを深めている。

4 単元の指導計画

	時数	主な学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法
1	1～2	『なめとこ山の熊』の読解	・朗読CDを使い、音読が作品理解に与える効果を考えさせる。	A、D（行動観察、プリント）
2	3～4	「読み聞かせ」について学びグループ内で評価しあう	・好きな本を選ばせる。 ・本の魅力が伝わる読み方を考えながらグループ活動させる。	A・B・D（行動観察、プリント）
3	5～6	「読み聞かせ」の発表会とまとめ	・各グループの発表会 ・作品理解を深め、肉声による読みの魅力に気付かせる。	A・D（行動観察・プリント）

本時：(5/6 「読み聞かせ」発表会)

5 生徒の実態

普通科特進コース29名。国語への関心は高いが、文学的な文章の読解に関しては情景描写や登場人物の行動から心情を読み取ることが苦手だと感じている生徒が少なくない。自分で音読したり、他の人の音読を聞いたりすることによって、ことばの果たす役割を認識させ、読書や国語の学習意欲につなげたい。

6 本時の計画

(1) 本時の目標

「読み聞かせ」発表会

【発表者】書き手の思いや工夫を読み取り、「読み聞かせ」に活かすことができる。
聞き手の反応を確かめながら読むことができる。

【聞き手】「読み聞かせ」を聞き、作品の世界を味わうことができる。
作品の魅力を伝える効果的な表現について考えることができる。

(2) 本時の授業計画

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容の確認をする。 ・本時の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表で活かせるよう「読み聞かせ」の条件を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に本と関わり、その世界に親しもうとしているか。(A)
展開 (40)	<p>「読み聞かせ」発表 各グループで選んだ本を読み、それぞれ評価しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みは10分以内 ・質疑応答 ・評価コメントを書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価について 読む速さや姿勢 読みの工夫 主題等の伝え方 本の選定意図 などを評価シートに記入 <p>※評価シートには、自分の読みとの違いや、改めて気付いたことについても記入させる。</p> <p>※発表したグループも自己評価する。 →グループ別反省会は次回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本の魅力を伝える読みを工夫しているか。(B) ・聞き手の反応を確かめながら読むことができるか。(B・D) ・読みを聞きながら、話の山場やおもしろさを味わうことができたか。(B) ・質問して疑問点を解決することができたか。(B)
まとめ (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を振り返る。 ・次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価シートを回収する。 ・次回のグループについて確認し準備を指示をする。 	

A 関心・意欲・態度 B 話す・聞く能力 C 書く能力 D 読む能力 E 知識・理解

※絵本をプロジェクターやパワーポイントで拡大投影するには著作権者の許諾が必要です。
教室でみんなで読むには本が小さいのですが、著作物利用許可が間に合わないため、通常の「読み聞かせ」とほぼ同じ形態で評価し合っています。

※新型コロナウイルス感染を避けるため、予防対策をしながらグループ活動をします。

北鷹研修部通信 第2号 (職員用)

令和 2年10月27日(火)
秋田北鷹高等学校 研修部

★提案授業レポート (Aグループ)

10月23日 (金) 6校時 1年A組 国語総合 成田八千代先生

(1年A組の実態) 普通科特進コース29名。文学的な文章の読解に関しては情景描写や登場人物の行動から心情を読み取ることが苦手だと感じている生徒が少なくない。音読したり聞いたりすることで、ことばの果たす役割を認識させ、読書や国語の学習意欲につなげたい。なお本時に向けて2時間を使い宮沢賢治の『なめとこ山の熊』について学び、感想を出し合い擬音の効果について学んでいる。

目標

【発表者】

書き手の思いや工夫を読み取り「読み聞かせ」にいかすことができる。聞き手の反応を確かめながら読むことができる。

【聞き手】

「読み聞かせ」を聞き、作品の世界を味わうことができる。作品の魅力を伝える効果的な表現について考えることができる。



生徒は班ごとに分かれて着席し、班員の中から司会者、読み聞かせをするものを決め、順番に発表を行いました。

読み聞かせが行われた絵本
てぶくろをかいに
うんちっち
はらぺこあおむし
おによりつよいおよめさん

読む絵本はそれぞれの生徒が選びました。なぜこの絵本を選んだのかとの問いに「妹に読んであげているから」と答える場面もありました。温かいものも感じながら読み聞かせの時間が過ぎていきました。

研究協議：10月26日（月）16：10－16：50 会議室

協議の視点

- 1 生徒の意欲を高める手立てとその効果**
- 2 生徒のコミュニケーション能力を高める手立てとその効果**
- 3 生徒の思考力（考える力）を高める手立てとその効果**
- 4 生徒の質問力を高める手立てとその効果**



研究協議会は5人の1班で付箋紙法で行われました。

成果と課題

- ・教材を個人の選択にしたことで意欲が沸く。
- ・評価シートは発表をしなくても意見や質問を書くことができよい。
- ・読み聞かせをした生徒は聞き手の反応をうけとっていたのか。上手な読みであっても聞き手の反応を見ずに一方通行と感じられたものもあった。
- ・グループの工夫がもっと発表にいかされたらよかった。

指導助言（澤口教頭）

人の声で表現するものに朗読、紙芝居、落語、講談などがある。読み聞かせは文章とせりふ、せりふとせりふの掛け合いなど、奥が深い。生徒にはもっと間を意識して話してもらいたいと思った。10分以内という制限時間があるのなら、読み聞かせを絵本の部分的に行わせてもよかったのでは。

アンケートより

- ・読み聞かせは初めての体験だったのでよい体験でした。
- ・先生方の多角的な見解が勉強になりました。
- ・音声言語教育はもっと重視すべきと思っていたので小説読解の発展として読み聞かせはいいと思いました。

商業科(簿記)学習指導案

指導者 才宮 亮司

- 1 日時 令和2年10月23日(金) 5校時
- 2 対象 普通科2年D組キャリアコース (男子5名 女子19名 計24名)
- 3 場所 2D教室
- 4 教材名・単元名 使用教科書:実教出版「新簿記」
第14章 有価証券の取引 (1)売買を目的とした有価証券の取得の仕訳
- 5 単元の目標 有価証券の意味と種類を明らかにし、有価証券の取得・売却の記帳方法を理解させる。また、市場の原理によって、有価証券の価値が変化することを実際の取引を示し記帳方法を習得させる。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づく対応力。	実務に即して体系的・系統的に判断することができる重要性。	適正な取引の記録に対して、関連する技術の体得。	主体的かつ協働的に取り組み、組織の一員としての役割の理解。

7 単元について

(1)教材観 教科書が現在の「金融商品に関する会計基準」や「中小企業の会計に関する指針」に合致しておらず、企業会計に関する法規に則って指導する。

(2)生徒の実態

クラス全体	配慮を要する生徒(UD化授業をすべき理由)		
	タイプⅠ	タイプⅡ	タイプⅢ
クラス全体の人数が34名の中で、スポーツコース10名とは違う教育課程系列で学習するクラスである。専門学校への進学希望者や進路希望が特でない生徒が多数で検定合格への意欲は低い。	作業速度が遅い。書くことや計算することに一定の時間を要し、書字能力も低い。	睡眠障害があり、記帳するなどの作業中に寝る。逃避傾向があり指導が難しい。	LDの症状の中で、推論することに著しい困難がある。作業以外の創造は難しい。

(3)指導観

クラス全体	配慮を要する生徒(UD化授業でできること)		
	タイプⅠ	タイプⅡ	タイプⅢ
クラス全体がキャリアコースでまとまるC組とは、内容は同じでも指導方法を変えないと現在の科目の意欲レベルは高揚しない。個々の能力や処理能力に応じた学習課題を提案したい。	難読漢字にルビをふる。黒板の全部を写さなくてもよい指導をする。配付プリントを工夫する。	頻繁に巡見を行い、集中力を高めさせて、作業を喚起する。近くで説明や解説を行う。	少しずつ変化する類似問題を作成し、反復の中で応用力を高める工夫をする。

- 8 単元の系統性 高校1年 科目「社会と情報」 産業における情報システム
 高校2、3年 科目「簿記」「情報処理」 回帰分析 Zグラフ
 高校3年 科目「ビジネス基礎」「ビジネス実務」 投資 度量衡の計算
- 9 指導計画 取引の記帳 手形の取引 4時間
 債権・債務の取引 3時間
 有価証券・固定資産の取引 6時間(本時1/6時間)

10 本時におけるユニバーサルデザインの視点

- ・50分の授業で取り組む内容を口頭ではなく、プレートで示し、見える化する。
- ・最新のデータを活用し、商取引がファンタジーではないことを理解させる。

- 11 本時の目標 売買を目的とした有価証券の取得時と売却時の仕訳ができる。

過程	指導内容	形態	主な発問・指示 (指)指示 (発)発問	○指導上の留意点 ◎個に応じた手立て I II III 配慮を要する生徒への支援	教材 教具	評価
つ か む 5分	本時の流れを提示 学習内容を想起させる。	一斉	(指)お金の使い方、貯め方について考えてみよう。 (発)自分が得をするのか損をするのか。想像しながら進めていきましょう。	○作業させない。 ◎II 顔を上げさせる。 ○家庭による経済格差等への配慮 ◎I 嗜好情報の提供	プレート	時事の関心
有価証券を売買することによって、損益が発生する。						
ふ か め 5分	売買目的有価証券の種類を確認する。 社債 株式	一斉 個別 一斉 個別	(指)プリントの仕訳をしてみよう。 (発)額面金額から、割算によって、社債の枚数は求めることができましたか。 (指)プリントの仕訳をしてみよう。 (発)買入手数料は、売買目的有価証券の金額にプラスしましたか。	◎III 電卓を活用し、得意な四則演算をさせない。 ○社債については、発行する側のメリットやデメリット等は説明しない。 ◎II プリント配付により学習を喚起させる。 ○現在はEC取引により買入手数料は低額であることに触れる。	板書 プリント 板書 プリント	借方・貸方の記入が正確に行われているか。
(めあて) 有価証券売却益と有価証券売却損が発生する仕訳ができる。						
る 40分	実際の株価を利用して、有価証券売却損益を計算する。	個別	(指)興味ある銘柄を探してみよう。 (発)プリントに示した例に則って終値を比較してみよう。	◎I III 進捗を確認して、個別支援を行う。 ○できた生徒は提出させて次の課題に取り組むように指示する。	新聞	新聞等の資料を活用
ま と め る 5分	学習活動の確認	一斉	(指)プリントを見て、仕訳を確認しよう。 (発)次の時間前に取り組んでおきましょう。	○全員の進捗の確認 ◎I II III 個別に進捗を確認して、次時の説明等に反映させる。	プリント	ファイリング
実社会の変動やビジネスの諸活動を意識して、目標を持って学校生活を過ごすことができる。						

北鷹研修部通信 第3号 (職員用)

令和2年10月27日(火)

秋田北鷹高等学校 研修部

★提案授業レポート (Cグループ)

10月23日 (金) 5校時 2年D組 簿記 才宮 亮司 先生

キャリアコースのみ選択で、男子5名、女子19名である。専門学校や進路希望が特になく、検定合格への意欲は低い。クラス全体がキャリアコースでまとまるC組とは、内容は同じでも指導方法を変えないと科目の意欲レベルは高揚しない。個々の能力や処理能力に応じた学習課題を提案したい。

ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた授業ということで、授業で取り組む内容をプレートにしたものを黒板に掲示し、見える化する。

生徒は緊張しながらも、しっかり顔をあげて授業に集中している。



売買目的有価証券の「社債」について、才宮先生が会社ですごいアプリを開発したという想定で面白く説明し、仕訳させる。

巡回しながら、UDの視点で配慮を要する生徒のタイプに合わせた丁寧な指導をする。

新聞の株価のページを配付し、生徒各自に好きな銘柄を1つ選ばせる。そして10/2に購入した100株を10/22に売却したときの損益を計算して記帳させる。

出来た生徒から提出させ、個別指導しながら進捗を確認する。



協議の視点

- 1 生徒の意欲を高める手立てとその効果**
- 2 生徒のコミュニケーション能力を高める手立てとその効果**
- 3 生徒の思考力（考える力）を高める手立てとその効果**
- 4 生徒の質問力を高める手立てとその効果**



農業、商業、理科、家庭、英語と科の枠を超えた5人のメンバーによる研究協議会で、協議は付箋紙法で行いました。

事前に配付された付箋では足りなくて、予備のものを使用して成果を書き込むなど活発な意見交換が行われました。

成果と課題

- ・生徒への声かけ、授業内容の見える化、新聞活用で意欲をアップさせている。
- ・こまめに目標を確認し、生徒の達成感をアップさせている。
- ・スピーディーで生徒を退屈させない授業である。
- ・プリントがよくできていて、机間巡視も細やかである。
- ・生徒がお互いに自分の仕訳を見せあう場面があってもよいのではないか。

指導助言（青山仁校長）

簿記の授業は、どうしても検定を意識して「知識を教えないと」、「教えたほうが早い」などと思ってしまい、協議の視点の3と4の時間がゆっくり取れないジレンマがある。難しいが、どこかで話し合い、深めさせる場面を設けることが出来たらと思う。

アンケートより

- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導案や授業が参考になった。
- ・株式をレアリア（実物）の新聞で学ぶことは効果的で、進路実現にも活かせる。
- ・他教科の授業を参観することができ、とても参考になった。
- ・研修への参加者が少なく残念であったが、来年度以降も続けてほしい。

第2学年 『果樹』 学習指導案

日時・場所 10月28日(水) 2校時
 対 象 秋田県立秋田北鷹高等学校
 生物資源科2年N組 33名
 使用教科書 果樹(実教出版) p64~69
 指 導 者 秋田県立秋田北鷹高等学校
 菊地 生馬

1 単元名 第3章 果樹の栽培管理 第8節 結果習性と整枝・せん定 第3 整枝・せん定

2 単元の目標

- (1) 芽と枝の種類と構成を知る。(知識・理解)
- (2) 様々な果樹の結果習性を理解する。(関心・意欲・態度)
- (3) 整枝・せん定の目的を理解し、その方法を学ぶ。(思考・判断・表現)
- (4) 整枝・せん定の知識を用いて適切に作業を行うことができる。(技能)

3 単元と生徒の実態

(1) 教材観

「結果習性と整枝・せん定」は、植え付けた苗木が成長するにつれて、目的とする樹形に育て、毎年高い生産性を上げるとともに、栽培管理をしやすく、かつ能率的に実施するために欠くことのできない重要な管理の1つである。枝・葉の種類と性質を理解すること、せん定の目的を理解することで、せん定が樹木に与える影響の大きさを考える必要がある。また、実際の作業に向けた基礎知識の習得を目標とする。

(2) 生徒観

2年生物資源科は、男子7名、女子26名で構成されている。授業態度は非常に良好であるが、質問や発問に対しては、男子生徒が中心となって発言している。

(3) 指導観

本時の授業では、せん定を行うべき枝の種類とせん定の方法、なぜせん定をする必要があるのか(枝ごとに)をグループになり、iPad、プロジェクターを用いて授業を行う。各班に「せん定を必要とする枝」が描かれた図を配布し、せん定が必要だと思われる枝と、なぜその枝を選んだのか、理由を考え図やノートにメモを取りながら授業を行う。実際の樹木の写真を見てせん定すべき枝が判別できるよう指導していきたい。

4 指導と評価の計画

時	指導内容	評価規準			
		関心・意欲・態度 (ア)	思考・判断・表現 (イ)	技能 (ウ)	知識・理解 (エ)
1	芽と枝の種類		芽や枝をみて、どのような芽、枝であるか判断することができる。		芽、枝の種類を覚え、どのような場所、時期に発生するかを理解できる
2	結果習性	花や果実のつき方について積極的に学ぶ態度が見られる。			花や果実のつき方を理解できる。
3	整枝・せん定 (本時)	せん定に関して意欲的に学ぶ態度が見られる。			せん定の目的、せん定すべき枝について理解できる。
4	せん定の方法			せん定に関する知識を基に実際に作業にあたり、的確にせん定ができる。	

5 本時の計画

- (1) 本時のねらい ①せん定すべき枝の名称と特徴を理解する。
 ②せん定作業（冬季せん定）に向けた知識の習得を目指す。

(2) 授業展開計画（50分授業）

段階	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業内容に関して確認する。 枝の種類や樹形に関して前回の授業の振り返りを行う。 本時の目標を確認し、ノートに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(本時の目標) せん定が必要な枝を知ろう！</div>	<ul style="list-style-type: none"> せん定を必要とする枝が描かれた図を配布し、板書の取り方、授業の流れを大まかに説明する。 前回の授業の復習を行いながら、教の授業の導入をする。 目標の設定 	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> グループワークを行う。 グループに分かれる。 グループワークでは、各班にせん定すべき枝の描かれた用紙をもとに、班で話し合いどの枝をせん定する必要があるのかを話し合う。せん定すべき枝が決まったら、赤ペンで印を付ける（選ぶ枝の本数は3本以上）。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発問:なぜその枝を選んだのか理由を考える。</div> <ul style="list-style-type: none"> 黒板の前でグループの代表者がどの枝に印を付けたかを全体で共有する。グループごとに印を付けた枝となぜその枝に印を付けたのか理由を発表する。 すべての班の情報共有が終わったら、プロジェクターを見ながら教師の話聞く。 ノートに当てはまる枝の名称を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループになるように指示を出す。 プロジェクターや iPad を使いグループワークの方法を説明する。 グループ分けを速やかに行いグループワークの時間を多くする。（10分程度） グループ内で役割分担を行う。（司会、書記、発表者） せん定しなくても良い枝を選んだ時は、取量や作業効率の低下につながることを教える。 iPad、プロジェクターを使用し、印を付けた枝に色を付ける。色を付けた枝はプロジェクターを通して全体に共有される。 枝の種類は全9種類 心枝、立ち枝、徒長枝、逆さ枝 交差枝、平行枝、逆行枝、胴吹き、ひこばえ 黒板と iPad、プロジェクターを使用しながら、板書する。 	<p>グループワークに積極的に参加し、せん定に関してクラス全体で意見を共有することができる。</p> <p>(ア) [発表・ノート]</p>
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業の感想、自己評価を行い、本時の学習活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートを整理し、本時の要点をノート、プロジェクター等を用いながら確認する。 	<p>せん定の目的、せん定すべき枝について理解できる。</p> <p>(エ) (ノート回収)</p>

北鷹研修部通信 第4号 (職員用)

令和2年11月2日(月)
秋田北鷹高等学校 研修部

★提案授業レポート (Dグループ)

10月28日(水) 2校時 2年N組 果樹 菊地 生馬 先生

2年生物資源科は、男子7名、女子26名で構成されている。授業態度は非常に良好であるが、質問や発問に対しては、男子生徒が中心となって発言している。本時の授業では、せん定を行うべき枝の種類とせん定の方法、なぜせん定をする必要があるのか(枝ごとに)をグループになり、iPad、プロジェクターを用いて授業を行う。実際の樹木の写真を見てせん定すべき枝が判別できるよう指導していきたい。



「せん定が必要な枝を知ろう」という目標を掲げ、iPad、プロジェクターなど ICT 機器を活用した授業です。たくさんの先生たちの参観があり、生徒たちの様子も普段とは違っていたのかもしれない。

グループワークでは、せん定の必要な枝を選んでいました。菊地先生から「全部で13本あるよ。」とのヒントもあり、生徒たちの関心は高まっていました。



グループごとの発表です。「光合成できないから」、「根っこに栄養が取り入れられないから」「枝が交差してるから」など皆さん、的確な理由から選んでいました。

iPad の利用によりスムーズな発表ができていました。すごい！

本校の木の写真をプロジェクターに映して、せん定の必要な枝の確認をしました。



協議の視点

- 1 生徒の意欲を高める手立てとその効果**
- 2 生徒のコミュニケーション能力を高める手立てとその効果**
- 3 生徒の思考力（考える力）を高める手立てとその効果**
- 4 生徒の質問力を高める手立てとその効果**

教科の枠を超えた授業研修会は、国語、理科、英語、体育、農業の教員合計10名が3班に分かれ、協議の視点に沿って活発な意見交換が行われた。



成果と課題

- ・実習を前提としていた導入方法がよかった。
- ・すべての班に発表させて意見交換できていた。
- ・iPad、プロジェクターの利用は、視覚的にとらえることを可能にした。
- ・発表方法には、他グループとの違いを言わせるなどの工夫があればよかった。
- ・生徒からの質問を誘発するよう、問いかけをするなど工夫があればよかった。
- ・ICTの活用はもっと様々なことに応用ができる。

指導助言（佐々木孝之教頭）

導入に生徒を引き付ける工夫があった。米には苗半作という言葉があり、せん定は果樹の生産において半分以上の重さのある作業である。せん定しなければ木はどうなるか考えさせてもよかった。教科の枠を超えて熱心なご意見があり、様々な視点から授業改善につなげていくことができるので授業参観をして勉強すべきだ。先生たちの指摘は貴重な財産であるので、持ち帰って見直してほしい。

アンケートより

- ・ICTを活用した教材の提示などを参考に、効果的な活用方法を見いだせた。
- ・iPadやプロジェクターの使い方を知り、生徒の意欲向上につなげたい。
- ・判断力育成のために格好のテーマであり、考える力を与えられると思った。
- ・実習とリンクした座学、グループワークの仕方など参考になった。

令和2年度 「質問力」に関するアンケート

集計結果

実施日：令和2年12月9日(火)～12月14日(月)

秋田北鷹高等学校 研修部

生徒アンケート推移（7月→12月） ①-1

		授業の姿勢							
区分	実施月	授業内容に対して、常に、疑問点を発見しようとして心がけている。		授業内容に対して、どちらかと言えば、疑問点を発見しようとして心がけている。		授業内容に対して、どちらかと言えば、疑問を感じることなく受け入れている。		授業内容に対して、全く疑問を感じることなく受け入れている。	
全校	7月	44	8.3%	300	56.6%	175	33.0%	11	2.1%
	12月	65	12.7%	281	54.9%	144	28.1%	22	4.3%
3年生	7月	19	10.8%	99	56.3%	53	30.1%	5	2.8%
	12月	23	15.5%	73	49.3%	46	31.1%	6	4.1%
2年生	7月	11	6.5%	90	53.6%	63	37.5%	4	2.4%
	12月	21	12.4%	96	56.8%	48	28.4%	4	2.4%
1年生	7月	14	7.5%	111	59.7%	59	31.7%	2	1.1%
	12月	21	10.8%	112	57.4%	50	25.6%	12	6.2%

生徒アンケート推移（7月→12月）①-2

		質問の姿勢							
区分	実施月	授業中、疑問を感じたら、自ら積極的に質問する。		授業中、質問を感じても、自ら質問することはないが、指名されたら質問する。		授業中、疑問を感じなくても、指名されたら何とか質問しようとする。		授業中、疑問を感じることもなく、指名されても質問しようとする。	
全校	7月	57	10.8%	291	54.9%	165	31.1%	17	3.2%
	12月	73	14.3%	268	52.3%	149	29.1%	22	4.3%
3年生	7月	21	11.9%	97	55.1%	55	31.3%	3	1.7%
	12月	22	14.9%	85	57.4%	39	26.4%	2	1.4%
2年生	7月	16	9.5%	88	52.4%	59	35.1%	5	3.0%
	12月	27	16.0%	82	48.5%	55	32.5%	5	3.0%
1年生	7月	20	10.8%	106	57.0%	51	27.4%	9	4.8%
	12月	24	12.3%	101	51.8%	55	28.2%	15	7.7%

第2回生徒アンケート（12月）

Q.先生方は「生徒の質問を生かした授業」を実施していましたか？

授業の実施状況		実施していた。		どちらかと言えば、実施していた。		どちらかと言えば、実施していなかった。		実施していなかった。	
全校	512	160	31.3%	278	54.3%	59	11.5%	15	2.9%
3年生	148	48	32.4%	74	50.0%	20	13.5%	6	4.1%
2年生	169	47	27.8%	105	62.1%	13	7.7%	4	2.4%
1年生	195	65	33.3%	99	50.8%	26	13.3%	5	2.6%

Q.「授業中の質問」を心がけることで、学習意欲は向上しましたか？

学習意欲		向上した。		どちらかと言えば、向上した。		どちらかと言えば、向上していない。		向上していない。	
全校	512	92	18.0%	269	52.5%	101	19.7%	50	9.8%
3年生	148	24	16.2%	79	53.4%	28	18.9%	17	11.5%
2年生	169	33	19.5%	86	50.9%	36	21.3%	14	8.3%
1年生	195	35	17.9%	104	53.3%	37	19.0%	19	9.7%

第2回生徒アンケート（12月）

Q.「授業中の質問」を心がけることで、コミュニケーションの力は向上しましたか？

コミュニケーションの力		向上した。		どちらかと言えば、向上した。		どちらかと言えば、向上していない。		向上していない。	
全校	512	102	19.9%	262	51.2%	109	21.3%	39	7.6%
3年生	148	25	16.9%	83	56.1%	30	20.3%	10	6.8%
2年生	169	33	19.5%	89	52.7%	31	18.3%	16	9.5%
1年生	195	44	22.6%	90	46.2%	48	24.6%	13	6.7%

Q.「授業中の質問」を心がけることで、考える力は向上しましたか？

考える力		向上した。		どちらかと言えば、向上した。		どちらかと言えば、向上していない。		向上していない。	
全校	512	145	28.3%	273	53.3%	68	13.3%	26	5.1%
3年生	148	37	25.0%	87	58.8%	14	9.5%	10	6.8%
2年生	169	50	29.6%	86	50.9%	25	14.8%	8	4.7%
1年生	195	58	29.7%	100	51.3%	29	14.9%	8	4.1%